

自己改革取組宣言

これまでも、これからも、地域とともに
JA あまるめは総合事業を展開します

農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。
このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。
そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、地域にとってなくてはならない組織であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JA は、農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農産物の販売や、信用事業（JA バンク）、共済事業（JA 共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方で、地域農業の発展や地域づくり、ニッポンの食を応援していただければ、地域農業の応援団として准組合員として加入いただいております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、JA の経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、JA の総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

具体的な取り組みは、別紙の経営計画をご覧ください。
主な取り組みを次の5点により紹介します。

1. 地域営農育成の支援（シニア世代就農支援：予算額50万円）
2. 新たな担い手育成への支援（新規就農支援対策：145万円）
3. 消費者交流支援（交流田・組合員のつどい：予算額35万円）
4. 園芸指導事業（園芸特産物推進対策：予算額120万円）
5. 米穀指導事業（良質米対策：予算額410万円） ※その他総会資料参照

農協改革



⇒農協の在り方が問われている



政府は、「農業を成長産業にするため、農協組織を抜本的に見直そう」としています。確かに、農業は厳しい情勢にあり、改革は必要と考えますが、農協は組合員のものであり、政府主導の改革ではなく、組合員の意志で改革を行うべきであり、農協も農家と一緒に難局に立ち向かう努力をしています。

農協法の改正

競争社会を至上とし、
協同組合を否定した
考えからの改正5項目

- ①事業運営⇒ 非営利規定の廃止「農業所得増大を最大限に」
- ②理事構成⇒ 理事の過半数を認定農業者又は実践的能力を有する者
- ③准組合員のJA利用規制⇒ 平成33年結論を出す。(1/2規制)
- ④中央会⇒ ・全中→一般社団法人(H31年9月末まで)
・県中→連合会(H31年9月末まで)
- ⑤監査方法⇒ 平成31年9月末までに公認会計士監査へ移行



自己改革

Q 「農業の成長産業化」って言うけど、どうなる？

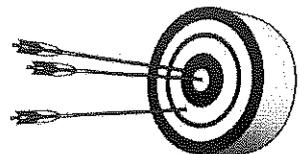
企業の農業参入が進み、競争力のある農業、儲かる農業経営が重視され、参入してきた民間企業は、儲からないと即、撤退するような事態も想定されます。これまで培ってきた技術や、労力や、実績は活かされることなく儲かり戦略の名の下、既存組織の弱体化や解体につながりかねない。

Q 「JAあまるめ」は、どのような対応をするのか？

組合員の総意のもと、組織・事業のあり方を検討し、組合員が望む役割を發揮して参ります。農協事業だけでなく、組合員個々の農業経営に於いても、農業者の世代交代期、農業の構造変革期を迎え、次世代への農業経営の引継ぎが重要であると考えます。

農地を守り、人を守り、地域を守る為、魅力ある農業と、地域になくはない農協として、次に掲げる『三本の矢(3項目)』を自己改革の柱として取り組み強化致します。

JAあまるめ自己改革三本の矢

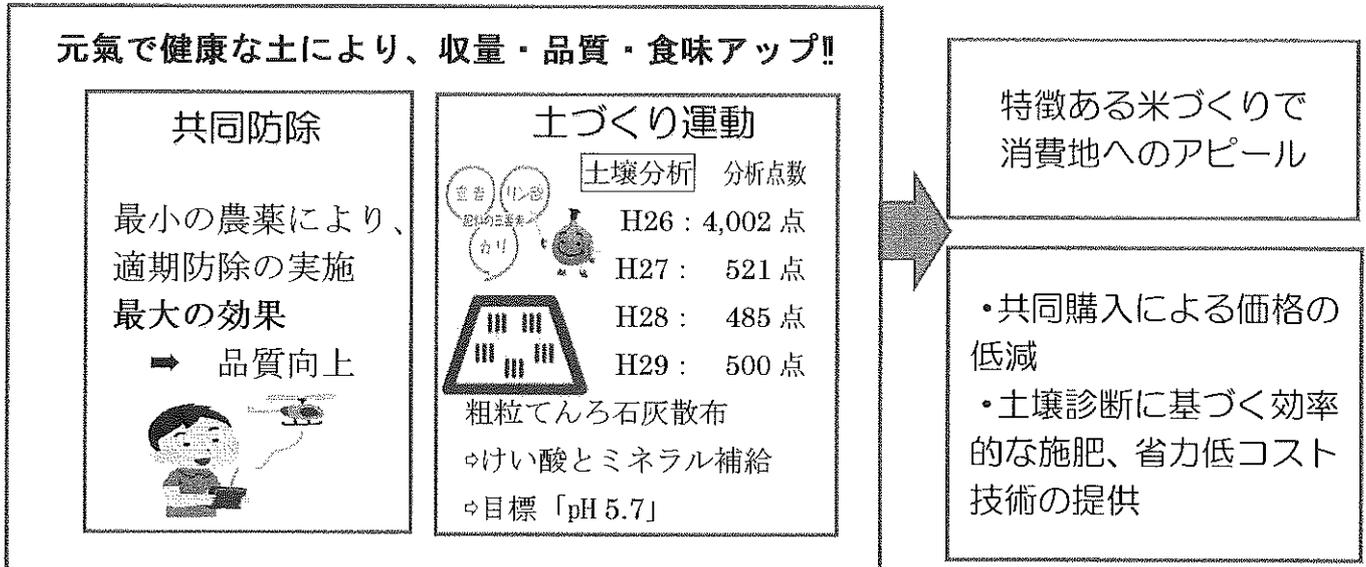


1. 農家組合員の所得増大・農業生産の拡大

①特徴ある米づくりで、

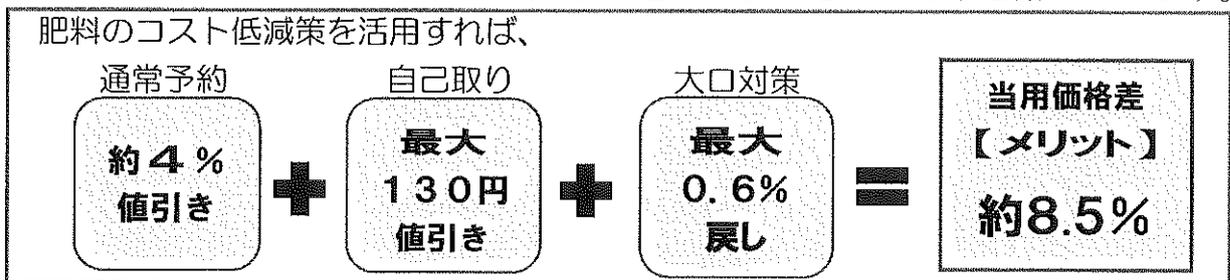
販売メリットを出し、資材・農薬等のコストを引き下げます

生産者で構成するブランド米振興会と生産指導、販売と協議し、施肥設計を決定。農家の生産費削減に向けて、低コスト資材の活用や、省力化技術の導入を進め、低コスト農業を实践、トータルメリットに向けた取り組みをしています。



肥料の予約自己取りで経費削減!!

毎年、自己取りを11月と、3月に実施。7割強の作付けを占める特別栽培米用肥料を対象に行い、農家の経営規模に応じた対策を講じています。



米生産コストの20%を占める農機具への対応!!

農機の低コスト化として、マイナーチェンジ、機能を絞った低価格モデル農機の提案や、機械の共同利用、リース・レンタル事業の推進、中古農機の取り組みによる価格の引き下げと、関係機関との連携を密にし、各種制度を利用した推進を行っております。

②【米+大豆+園特】を基本とした複合経営で、所得増を目指します

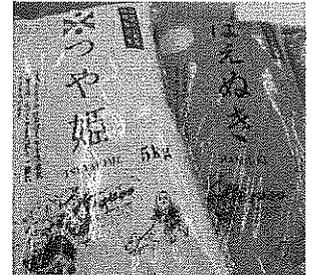
転作用機械の共同利用、大豆播種・刈取作業の作業受託により効率アップ ➔ 転作機械化利用組合
農地集積や規模拡大を目指す農家の労働力不足を解消し、安定生産目指す ➔ 無料職業紹介
今後の取り組みとして、農業経験値の高い委託者の知識と労働力を提供した雇用システムを構築。
力を合わせる農業を目指します。地域を上げて、力を合わせて、共生・共存・共育・共同!!

③安全・安心・安定品質なJAあまるめ産米の結びつき先の拡大と、地産地消の拡大、付加価値の高い商品づくりをし、販売強化します

関東・関西市場に、土づくり等JAあまるめの特徴ある取り組みを前面に組合長自らがトップセールスするとともに、生産者組織ブランド米振興会の会長、担当職員も積極的に販促強化しています。「JAあまるめ産米は、品質が安定している。安心して販売できる。」等、取引業者からは大変好評頂き、継続的な産地指定を受けるなど、有利販売へと繋がっています。一方、地場においては、マーケットでの「JAあまるめ産今摺米」として、つや姫・はえぬきの販売を強化。

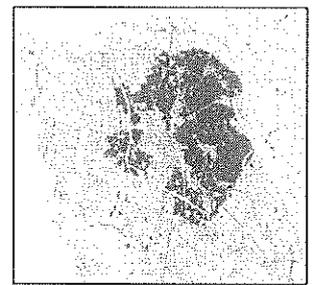
オリジナル米袋による(株)結米屋での精米事業により、安全・安心な商品として、贈答用にも重宝されています。

また、加工事業においても、「コシ・のび」に定評ある正月用の餅や、おにぎりの人気は多くのお客様に好評頂き、販売を伸ばしています。より多くのリピーターを増やしなが、販売を強化致します。



④JAあまるめ人・農地プランで、農業生産基盤の体制を強化します

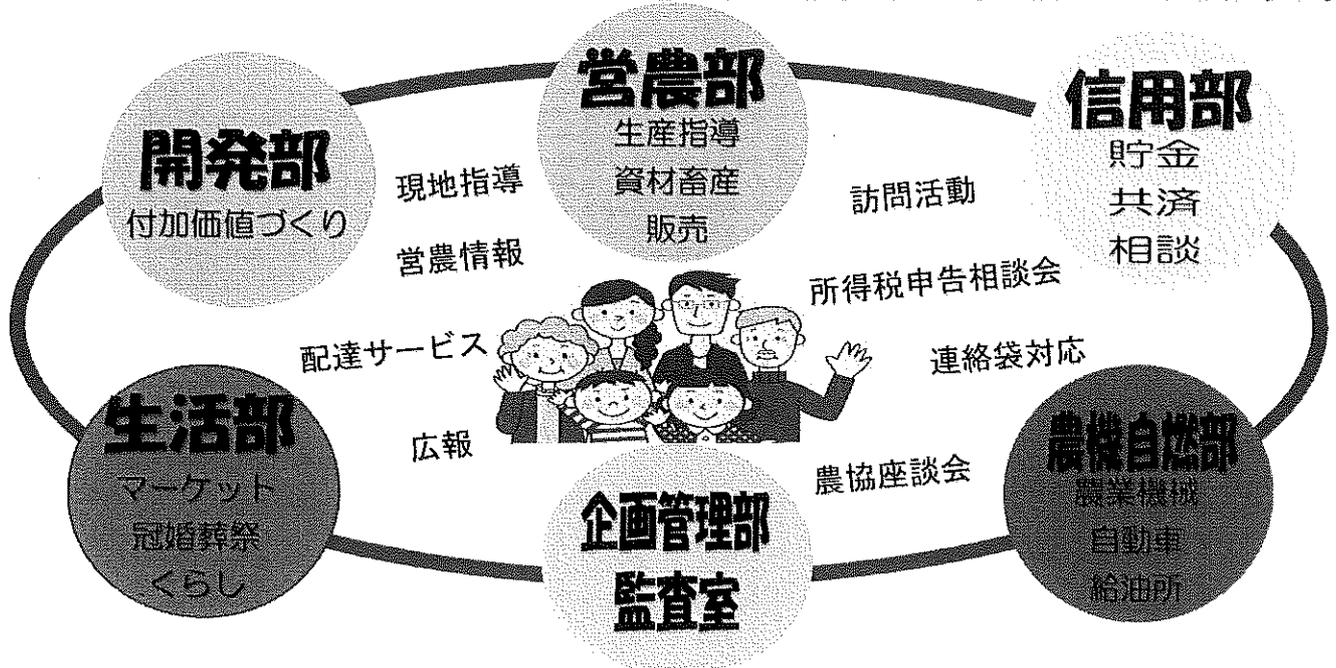
管内1,300haの耕作者全員を1つのJAあまるめ人・農地プランとして、外資の参入を防ぎ、堆肥・転炉石灰等投入した健康な農地で作付た米を中心に、作物の営農計画をデータ化し、生産から販売をトータルに取り組む。面的集積、地域の実情を反映した受委託として、これからの将来像を農協、農協子会社(株)結米屋、管内22集落の生産組合でつくりあげる営農を展開します。



▲営農計画は、GISシステムにより地図で対応

2. 地域の活性化

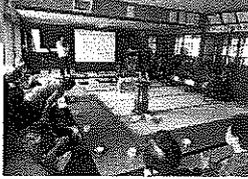
6部1室により、組合員と地域住民に総合サービスを提供し「組合員の拠り所となる」「必要とされる」「信頼される」農協づくりに積極的に取り組みます



3. 結びつき強化

①地域貢献活動 → 地域支援事業の展開「拠り所 “しゃんしゃん”」

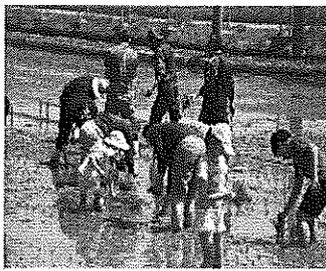
JAとして初めての取り組みとなった「介護予防事業」を立ち上げ、地域の皆さんの拠り所として開設。地域の実情に応じた拠点として、個人の主体的取り組みの喚起に寄与しているとし、平成29年11月、厚生労働省主催の第6回健康寿命をのぼそう！アワードで、老健局長賞優良賞を受賞。地域全体でいつまでも自分らしく、元気に暮らすための「恩返し」事業として行政、関係機関の協力を得ながら取り組んで参ります。

<p>拠り所「しゃんしゃん」</p>  <p>健康アップ体操 貯筋により、健康寿命延伸！</p>	 <p>＜出前 しゃんしゃん塾 (各集落にて)＞</p>  <p>子育て支援 センターとの 交流▶</p>	<p>金曜しゃんしゃん塾 (多世代交流)</p> <p>脳神経専門医による健康講話▶</p>   <p>＜庄内警察署による シュミレーター使っ ての横断歩行指導</p>
---	---	---

②食と農をつなぐ活動・協同組合間協同



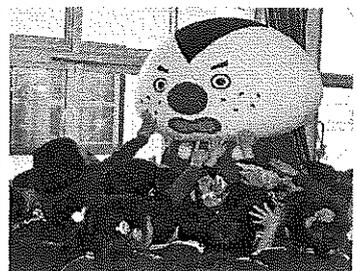
マーケット
「産直コーナー」



生協交流体験田



千葉の小学校で
青年部の盟友が
農業の一日先生



米と豚肉を提供「お楽しみ給食会」
おこめんジャーと「食」の大切さを伝える

③ふれあい活動



毎年恒例 JA夏まつり
カントリーへ約400名が集客



女性部
あんべみ会(試食会)
&店舗意見交換会



新米おにぎりで交通安全
への呼びかけ『しっかり
ハンドルおにぎり作戦』



福祉施設に
「福祉もち」寄贈

昭和44年から
毎年継続



「カーブミラー
クリーン作戦」
小さな親切
実行章受賞



JAあまるめは、
これからも地域と共に歩み続けます